

活動の概要

タイトル

地域で育むジャンボコキア

活動の背景や目的、活動内容について（200字程度）

大本・小薬・松沼・飾り馬の里は小山市の北部に位置し、近年少子高齢化や担い手不足によって、農家だけで農村が持つ多面的機能を維持することが難化しており、非農家に保全活動への関心をどのように持ってもらうかが課題となっている。大本・小薬・松沼・飾り馬の里では、約 3000 m²の遊休農地を活用し、農家・非農家の垣根を越えてジャンボコキアの植栽を行っており、地域の様々な人々が多面的機能支払交付金の活動に触れるきっかけとなっている。

活動の特徴や地域との繋がりについて（150字程度）

本活動はジャンボコキアの植栽活動を地域の農家と非農家が協力して行っていることが特徴である。普段農業に関わりを持っていない方々が、ジャンボコキアの植栽活動に参加することで、地元農家と交流をすることができる。さらに、農家と非農家が共に作業することで、地域全体で保全活動への関心を持つてもらうことに繋がっている。

活動の効果波及について（150字程度）

本活動を通じ植栽における景観形成だけでなく、地域間の交流により、地域の保全活動への関心を高め、活動がより活発的になっている。また、ジャンボコキアが新聞、テレビ等で取り上げられたことで、毎年地域外から訪れる人も少なくなく、多面的機能支払交付金事業における共同活動を知ってもらうきっかけとなっている。さらに、ジャンボコキアが地域外から評価されることで活動へのモチベーション向上にもつながっている。

推薦理由（200字程度）

大本・小薬・松沼・飾り馬の里では、少子高齢化と担い手不足が深刻化し、農村の維持管理の負担が増加していた。しかし、ジャンボコキアの植栽活動を通じて、農家ではない地域住民の参加を進めたことが、農家と非農家との架け橋となり、農業・農村の持つ多面的機能の維持発揮に必要な共同活動がより活発的に行えるようになった。

この取り組みは、多面的機能支払交付金事業に关心を持つてもらうきっかけ作りの一例となる活動として推薦する。